



様々な意味を持ち、数多くの言葉に使われている「道」。
本を通して、未知なる「道」に出会ってみませんか。



『埼玉・歴史の道 50 話』

(埼玉県立博物館／編著 埼玉新聞社 2005年)

「黒曜石はどのような道を経て埼玉県までもたらされたのか」「菅原孝標女は『更科日記』の中でどのような道で武蔵国に入ったのか」など、古代から現代までの「埼玉県の道」に関する話が満載です。

豊富な情報・資料をもとにしているので、埼玉県をより詳しく知るためにも是非読んでおきたい一冊です。

『駄犬道中おかげ参り』

(土橋章宏／著 小学館 2016年)



江戸時代において、60年に一度の“おかげ年”に、全国から一斉に庶民が伊勢神宮へ参詣した、“おかげ参り”。

本書は、“おかげ参り”をすることになった博徒の辰五郎が、ひよんなこと出会った犬の翁丸や子どもの三吉、美女の沙夜とともに繰り広げる珍道中です。借金取りに追われながら、辰五郎は無事に伊勢神宮にたどり着けるのか！？最後まで目が離せません。

『電車とバスと徒歩で行く奥の細道紀行』

(櫻井寛／写真・文 日経BP社 2011年)



旅の先輩である俳聖・松尾芭蕉に惹かれた著者が『奥の細道』『野ざらし紀行』『笈の小文』等の道を実際に辿ってまとめた紀行文です。全てのページに色鮮やかな写真が掲載されており、目で見ても楽しいです。「芭蕉翁が訪れたのだから」と険しい月山にも登るなど、著者の芭蕉に対する尊敬の念を感じ取ることができます。



『大人の鉄道趣味入門 人生の後半を楽しむための兵法書』

(池口英司／著 交通新聞社 2019年)

高度経済成長時代と比べて鉄道がどう変わったかを踏まえたうえで、「カメラをどう選ぶべきか」「SNSにアップしたときに見栄えがする撮影地」など現代に対応した手法を紹介。また、鉄道×音楽・鉄道×酒蔵・鉄道×将棋といった様々な楽しみ方の切り口も提案します。本書のターゲットであるシニア層の方はもちろん、鉄道に興味のある他の年代の方も楽しめる一冊です。

『ちょっとお抹茶しませんか ゆるゆるほっこり茶道生活』

(渋谷陽子／絵と文 リヨン社 2006年)



茶道の習い事を始めてみて感じたあれこれを、軽妙な文と可愛い絵で読みやすくまとめています。堅苦しい解説書とは違い、ゆるゆると楽しみながら茶道を知ることができます。

茶道に興味があるものの、どこから手をつければいいのか分からない方や、茶道の雰囲気を知りたい方におすすめです。

令和2年9月

編集・発行：さいたま市立与野図書館 さいたま市中央区下落合 5-11-11

TEL 048-853-7816 FAX 048-857-1946